ねっとわーく厚生 network
vol. 11
2011.6
財団法人山梨厚生会
山梨厚生病院
■ 編集・発行 ■
山梨厚生病院　広報委員会
TEL 0553-23-1311
URL http://www.kosei.jp/

平成23年度を迎えて

財団法人山梨厚生会　理事長　有　泉　憲　史

未曾有の大震災後の広報誌巻頭のご挨拶となります。山梨厚生会の職員一同、犠牲になられた方々のご冥福を心からお祈りいたします。

被災者の方々のご心情、被災地の現状など、山梨で生活する私たちには計り知ることすらできませんが、震災の現状を鑑み、山梨厚生会として以下の取り組みを行ないます。

（1）電力確保が特に重要な手術室とレントゲン・CT・MRI室に対する独自の発電装置の可否あるいは病院への電力供給確保に全力を尽くします。
（2）産科診療休止に伴い現在使用されていない塩山市民病院の病棟の一部を、震災関連の医療・介護・被災者支援のために解放します。
スタッフの補充などは行政との連携の中で対応できればと考えています。
（3）院内の消費電力の推移や節電効果を職員全体に分かり易い形で定期的に提示し、引き続き節電に職員全体で取り組んでいきます。
（4）病院独自あるいは関連団体を通じて、義援金活動を継続していきます。
（5）被災地での医療や救済活動にあたった当会関係者の話を聞ける場を設けて震災の現実を知り、私たちに何ができるかを全員で考える機会を作っていきたいと思います。

計画停電などで、私たちもいまだかつてない緊張感の中での診療を経験しました。そして夏場に向けて第二の正念場を迎えます。私たちは山梨へ避難されて来られた被災者の方々のケアはもちろん、この地域の住民の健康を守ることが日本と被災地の将来の復興につながっていくと信じています。今、私たちは世代や立場を越えていろいろな思いを共有しています。どうか皆様、お力添えをお願い致します。

平成23年度山梨厚生病院運営目標

1. 診療･看護の質を高め、地域の中核病院としての機能を充実させる。
2. 救急診療機能を充実させる。
3. 経済危機に対応し、職員が安心して働ける職場を維持する。
4. 災害拠点病院としての機能を充実させる。

病院の緊急管理体制について

企画管理部 課長　矢　崎　安　秋

3月11日に発生しました東日本大震災は、多数の死者や、行方不明者、負傷者を出したばかりでなく、医療機関への影響も多大なものでした。

当院も地震発生後数日で計画停電が実施され、患者様はもとより職員には多大な迷惑をお掛けした次第です。

当院は災害拠点病院の指定を受け、地域の中核病院としての責任を果たすべく、災害対策マニュアルに基づき緊急管理体制の整備を下記の様に行なっています。

1．災害時の水源の確保

平常時より敷地内にボーリングした地下水を使用しています。水質については、月1回指定検査機関で検査を行っています。

非常用電源にて配管等に損傷がない限り使用できます。

2．電力の確保

自家用発電装置を4基稼動し、最大供給電力は685KWAです。

（当院の平常時最大使用量は1100KWAです。）

平常時の使用量全量を賄う事は出来ませんが、院内各所の非常用コンセントにて使用可能です。

3．食糧の備蓄

入院患者様を主の対象とした約3日分500食（水・おかゆ・副食2品）を備蓄しています。

4．外部との連絡

・NTT災害時有線3回線（非常用電源にて使用）
・防災行政無線
・山梨県病院協会アマチュア無線

企画管理部は患者様･職員の皆様のためにより快適な環境を整備し、不安要素を少しでも排除できるよう日々検討を重ねています。しかし節電等は皆様のご協力がなければ成立しません。これから暑い夏場を迎え院内消費電力の推移や節電効果をより分かりやすい形で提供していく予定です。

この度の東日本大震災を教訓に、より一層のインフラ整備・内容の充実を図って参りたいと思います。

医療安全管理室開設！

～医療事故ゼロを目指して～

【開設に当たって】

院　長　千　葉　成　宏

今年度から長い間の懸案であった専従の医療安全管理者を配置することができるようになり、これにより医療安全管理室を正式に開設することと致しました。既に昨年度から医療安全管理者を中心に準備を進めてきており、本年4月より本格的に稼動することになりました。

病院における安全管理は、患者様に対して、安全で質の高い医療を提供するために不可欠で最優先の課題でもありますが、これは職員の個人的意識や努力の積み重ねのみで達成されるものではなく、病院としての組織的な取り組み、そのためのシステム構築が必要とされます。当院においても「医療安全管理委員会」、「リスクマネージメント部会」、さらには「感染対策委員会」などの活動を通じて安全文化の院内への浸透を図ってきたところであります。

医療安全管理室が開設されることにより、医療安全管理を推進していくための日常活動の拠点ができたことで、専従となる医療安全管理者の今後の一層の活躍が期待されます。

職員の皆様は、この機会に改定された「医療安全管理体制基準」に一度は目を通し、医療事故防止に努めるとともに、インシデント・アクシデントへの対応なども頭に入れておいて頂きたいと思います。

最後に、患者様には、医療事故防止は皆様の協力によって成り立つものであるとされていますので、ぜひご協力をお願い致します。また、医療安全にかかわるご意見やご要望は医療安全管理室あるいは相談センターが窓口になっていますのでよろしくお願いいたします。

【医療現場に即した活動を】

医療安全管理室長　根　津　次　子

医療安全管理室は本年4月1日に病院長直属の部署として設置されました。スタッフは診療部門・看護部門・薬剤部門・医療機器部門・事務部門から構成されています。また感染管理として院内感染予防に携わる職員（感染管理認定看護師）を看護部門より別に配置しています。

医療安全管理室の業務は①医療安全管理委員会で用いられる資料の作成並びにその他委員会運営に関すること、②医療安全に資する日常活動全般に関すること、③医療事故発生時の指示、指導に関すること、④その他医療安全体制の構築及び対応策の推進に関すること、等を担当し、毎月1回医療安全管理会議を開催していきます。医療安全管理室は医療安全管理委員会、リスクマネージメント部会、看護部医療安全委員会と連携をはかりながら医療安全に関する課題等の解消を目指していきます。

「医療における安全文化とは、医療に従事する全ての職員が、患者の安全を最優先に考え、その実現を目指す態度や考え方及びそれを可能にする組織のあり方」であると言われています。

安全な医療の提供は医療の基本です。職員一人ひとりが医療安全の必要性を病院及び自分自身の課題として認識することが、医療安全体制の確立を図り、安全な医療を行なう第一歩となります。

医療安全管理室スタッフ一同、役割を果たし安全文化の構築を目指して先頭に立って頑張ってまいります。

最新の医療と細心の看護の提供をめざしています

手術室・中央材料室 看護師長　小　池　栄　子

当手術室は患者様の安全･安心･安楽を保障することを目標に運営しています。手術室に来る患者様は、不安と緊張でいっぱいで、非日常的な環境に遭遇することになります。

ご家族に手を振る方、お孫さんからのお守りを握り締めた方など様々ですが、「大切な方をお預かり致します。誠心誠意尽くします。」そんな思いで手術室にお迎えします。

スタッフは看護師15名、看護補助者3名です。手術室経験10年以上の専任看護師8名を中心に、高い技術と深い知識を活かし、より専門性を追求し、日々変化する手術環境の中で順応できるよう個人の向上･チームの向上を追及しています。

患者様の立場に立った看護とは、しっかりとした裏づけがあり、一人ひとりの患者様の尊厳を守り、倫理的配慮が出来ることだと考えます。

現在、手術を行なう外科医師は非常勤を含めますと50人以上います。それぞれの医師に合った手術の進行がよりスムースになるよう、患者様にとって最良であるようお手伝いするのが手術室スタッフの仕事です。

日進月歩の医療の世界で、様々な最新技術が手術室にも導入されております。その一部を紹介しますと、

- **ハイビジョンカメラ搭載の内視鏡手術**　：お腹を大きく切ることなく外科的治療を行なうことができ、患者様の負担を軽減することができます。
- **腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術**　：足の血管からカテーテルを挿入し、腹部大動脈瘤に対して患部を切開することなく治療ができ、患者様の負担を軽減することができます。

このように最新技術を導入することにより、少しでも多くの地域の方々が、遠くの大病院に行かなくても当院において負担なく、安心して満足な治療を受けて頂ける事が、私たち手術室スタッフの願いです。

その為にも自己研鑽に励み、**「最新の医療と細心の看護の提供」**をめざし、日々努力を重ねてまいります。

▲後左から：堀内一美、松永由香里、山本美雪、山下しおり
雨宮美咲、長田絹子
▲中左から：小田切幸子、中村愛美、小林愛、堺怜美、中澤英恵
成田葉子、龍澤奈央
▲前左から：佐野里美(主任) 、小池栄子(師長)
雨宮美和(医師) 、 菊島あき(主任)、内田やすみ

『器械・機材の向こうに患者様がいる』を合言葉に

中央材料室は院内全部署と関わりを持っており、「ちゅうざい」と呼ばれています。スタッフは看護師 1 名、看護補助者 5 名、クラーク 1 名、臨床工学技士 3 名です。外来診療・検査・手術・治療・療養に必要な器械や器材を完全滅菌し、患者様の安全を守ることが一番の役割です。大型の全自動器械洗浄器（ｳｫｯｼｬｰﾃﾞｨｽｲﾝﾌｪｸﾀｰ）2台を完備し、直接患者様に使用する備品の全てはここで洗浄・除菌し、オートクレーブ滅菌またはエチレンオキサイト滅菌して各部門へ供給します。滅菌の質の保証も実績として管理されます。

第２の役割は、医療用材料を一括管理することです。定数交換制で材料の過不足が無いよう、特殊な材料も必要な時に必要数提供できるよう管理しています。

第３の役割は、医療器械を集中管理し使用状況を把握することです。医療器械のスペシャリストである臨床工学技士が保守・点検し厳しく動作確認を行ない、常に安全に医療器械が使用できる状態を維持しています。

決して表舞台に出ることはありませんが、これからも縁の下の力持ちとして患者様の安全をバックアップできるよう努力していきます。

▲**左から**：上原　弘（主任）、室　裕子、住友徹也

▲**後左から**：関みち子、小田切真、小宮山初美、木村俊一
▲**前左から**：中川佳子、土屋奈緒美、曽根生子

麻酔科って な・あ・に？

麻酔科 医長　**雨　宮　美　和**

『麻酔科ってどんな仕事をしているの?』『麻薬ばかり使っているの?』『医龍に登場する麻酔科医のように変わっているの?』等々、よく聞かれます。患者様が眠っている間の仕事が主で、仕事の内容が分かりにくいのは無理もありませんので、ご紹介させて頂きます。

麻酔科の主な仕事は、手術室での処置全般が快適に行なわれるように麻酔薬で眠っていただいたり、薬や神経ブロックで痛みをとったり、手術が安全にトラブルなく行なわれるよう、特殊な状況下で、短時間でも変化しやすい血液成分・血圧・脈拍・心電図・体温・尿量・血糖値および患者様にもともとある病気など全てをコントロールし、変化が生じないように全身の管理をさせて頂くことです。

手術前に患者様やそのご家族の不安や緊張を出来る限り取り除くために麻酔の説明をしたり、術後数日間PCAポンプ（ボタンを押せば安全に痛み止めが体内に注入され、自分でも痛みをコントロールすることができる器械）を用いて痛みをコントロールすることも行なっています。他にも緩和ケア（主に癌によるつらい症状を抑える治療）やペインクリニック（帯状疱疹や腰痛などの痛みの治療）などで、得意な神経ブロックや薬剤知識を活かして日々患者様と向き合っています。

常勤麻酔科医は私一人ですが、当院では手術を行なう医師・手術室看護師・病棟看護師・院内薬局などのスタッフと協力し、特に胸部・腹部の手術における痛みのケアは県内でもトップクラスであると自負しています。

これからも『**安全で、術後も痛くない・怖くない手術をめざして!**』努力いたします。

新入職員紹介　―よろしくお願いします―

今年度採用された18名の新人を紹介します。

▲後左から（配属先：出身校）
市川　理香（1-5 病棟：共立高等看護学院）
大森　　恵（1-5 病棟：帝京山梨看護専門学校）
▲前左から（配属先：出身校）
小林　　歩（1-4 病棟：甲府看護専門学校）
石原　寿佳（1-4 病棟：帝京山梨看護専門学校）

▲後左から（配属先：出身校）
佐藤愛希渚（2-3 病棟：帝京山梨看護専門学校）
手塚　　望（2-3 病棟：帝京山梨看護専門学校）
小池　浩美（2-3 病棟：山梨大学）
▲前左から（配属先：出身校）
水野麻梨沙（2-4 病棟：帝京山梨看護専門学校）
中竹雪梨香（2-4 病棟：富士吉田市立看護専門学校）

▲後左から（配属先：出身校）
石原　理英（塩山市民病院：帝京医療福祉専）
奥山　哲人（臨床工学室：日本工学院専）
▲前左から（配属先：出身校）
若松　陽子（リハビリ室：多摩リハビリテーション学院）
坂元　久恵（塩山市民病院：鹿児島医療技術専）

▲後左から（配属先：出身校）
塩澤佑季子（医事部：甲府医療秘書学院）
赤沢　朋美（相談センター：健康科学大学）
古屋　俊樹（相談センター：山梨県立大学）
▲前左から（配属先：出身校）
辻　恵梨香（医事部：甲府医療秘書学院）
関口　　茜（医事部：甲府医療秘書学院）